

Warm bath

白井沫

悪役令嬢として、義弟のえつちな羨！

がんばりましょう！

制作 warm bath

脚本 白井沫

トラック1 「とつても怖くて厳しそうなお嬢様」

「はじめまして」

(ひ、ひう……。な、何で僕が、お貴族様のお屋敷に……)

「アレクサンダーと、いいます」

(僕一人で、あう、あう……なんで挨拶なんてしてるんだろう……)

(こ、こんな……、沢山の人の前で、僕なんて……。なんで……)

「今日からティラー伯爵様のお屋敷に……その、身を置かせてもらう、ことになります
た」

「お、おじよさま、が、あの、その、僕の、あの、その」

「は、はい！」

(ひうあら あうあうあう……!)

Warm bath

白井沫

(ぼ、ぼぼぼ、僕みたいなのが、お貴族のお嬢様を『おねえさま』なんて呼べない……)
(せんせん釣り合わないし、無理だし、怖いし……)

(でも、でも、……言えって、言つてるし……)

(目、怖いし……)

「も、申し訳ありません、お、おお、おねえ、さま……」

「あ、あう……」

「た、ためいき……」

「やつぱり僕、来るんじやなか、」

「ひやい！」

「ご、ごめんなさい！ ボソボソ喋つて申し訳ございません！」

「あ、あ、あう」

(背筋伸ばせる)

Warm bath

白井沫

「は、はい」

「背筋、伸ばします」

(う、うう……つ、ど、どうやつて……、そんなの……むりだよ……)
「も、もうしわけ、」

「は、はいい！」

「謝つてばかりで申し訳、あ、ちが、ご、ごめんなさ、あ、あう、あう」

「あ、あう……」

(頭下げるに怒られるし、でもお貴族様に謝らないとか無理だし)

(でも全部駄目って、……いわれた……けど)

(でも、でも……不敬罪で……うつたえられる、かも、だし……)

(ひっ！)

(やつぱり呼びつけ方、お貴族様だもん……！
んなの……！)

僕と全然違うとこに住んでる人だよこ

Warm bath

白井沫

「は、はい」

「つ、付いて、参ります」

「あ、はい……」

(どもつちや、だめ……)

「も、もうしわけ、ありません」

「ほ、本当に……もうしわけ……」

「う……」

「僕、本当にやつていけるのかな」

トラック2 「おじよ、おねえ様とお風呂」

「あ、あ、ああの、ぼ、僕、そのあの」

(こんな綺麗なとこ歩かされて、ど、どうしよう)

(絨毯とか色んなもの汚しちゃわないか不安、なんだけど……)

「あ」

「申し訳ありません！く、臭かつたですか!?」

「み、みみみ水最後に浴びたの、一週間前で……つ」

「僕が水浴びして良い日がまだで、でもまだ臭くないと思つて、お洋服だつて綺麗でお嬢様にもご当主様にも失礼の無いようしているつもりだつたんです本当です！」

「ほ、本当に申し訳、」

(え、嘘!)

(歩いてきてる歩いてきてる)

(待つて待つて待つて来ないでこないで、その可愛い顔面近づかれると本当無理！呼吸も無理になつちやう同じ空気吸つちやうの無理)

「え、な、何何何、な」

(ひいっ!)

(お貴族様の！ お綺麗な手が！ 僕の腕掴んでる!!)

(い、いいい、こわい！ こわいかお、こわ)

「ああああああ！」

(え、うわ、ちょ、こわ、え)

(引っ張らないでくださいいいいい！)

「何、何、アツ、ちょ、お嬢様服引つ張らないで……っ」

「あつ、や、あ、やめ、おじょ、あ、ごめんなさい、おねえさま、お義姉様！ 服返して下さい！」

「ひつ！ あ、あう、ご、ごめんなさ」

「きやあ!?」

(何で僕、こ、こんな、こんなお貴族様に服剥かれてるの全裸なの)
(なにこわい、僕死ぬの?)

「あ、や、やめ、僕、僕、あの、あの」

「ひ、ひひひ一人でも！ 大丈夫ですからあああ！」

「は、はう……」

「は、はい。す、ごく、あの、よかつたです」

「体、洗つてもらうのも、シャンプーも」

(えへ……えへ……誰かに洗つてもらうの、なんて、初めて……)

「あ、あと、マッサージも」

(お嬢様の手、わしやわしや……すごく、すごく、丁寧で……やさしくて)
(……きもちよかったです……)

「えへへ……」

「ん、んんー」

「あ、あつたかいです」

「あ、は、い、肩まで……、お湯、浸かります……」

Warm bath

白井沫

「んんう……、はうー」

「あ、そ、そうです。初めてです、こう言うの
「誰かに、洗つてもらうの、なんて……」」

「温かいお湯も、初めてです」

「なれ、る」

「なれ……慣れ……」

「がんばります」

「明日から、毎日、お風呂……」

(あしたから……まいにち……)
(このかたと、おふろ……?)

「あ、あし、あしたも、あの、おじょ(あつ、ち、ちが、ちが……つー)、「お、おねえさま！ と、お、お風呂、ですか……？」

「あつ」
(ちがつた)

「あ、そ、そう、なんですね……。使用人、の方と……」

「わかり、ました」

(そ、そつか、そ、うだよね……だつて、う、……えつちだもん)

「でも、毎日、ン、こうやつて、ぬくぬく

「あ、ン、おねーさま。くすぐつたいです」

「首、撫でられると、ア、僕……」

「はい」

Warm bath

白井沫

「ン、はい」

「身嗜み、綺麗……します」

「へ……？」

「ぼくが、とうしゅ、こうほ？」

「え、なんで」

「ご当主様つて、お義姉様がなるんじや……？」

(あ、でも、この方と同じなら……えへ……)

(このかた、ぼくのねーさんに、なつてくれるんだ)
(えへ……かぞく、に、なつて……くれ、るかも……)

「あっ、なに」

「ん、あ、頭、あたま撫でられると僕、あ、ん、んう……」

「ん——」

Warm bath

白井沫

「ほあ？」

「かみいろ、いつしょ？」

「？」

「僕、お義姉様とは、その、違う色だと……」

「ご当主様方、と？」

「あ」

(え、どうしよ、え)

「あ、えと、そ、そう、なんですか」

(この方は、あう、悲しそうな顔、するけど、あう……)

「て、ていらーらしい……」

(ぼ、ぼく、べつに)
(う、うれしくない)

「こんなくすんだ金髪、よくあると思うのにな」
（貴女と、一緒に色でもないのに）

「ン、ンン……」

「僕は、その、おねえ、さまの髪の方が、その、綺麗だと、思います、……けど」

「あやつ、ん、んー！」

「あ、ま、まつて。撫でられるのは、あ、ん、……んんー」

「あつ、は、はいい。ねむたい、かもです……つ
「ん、……はうー……、あ、きもち、です」

「はいい、これから、ン、毎日、お風呂します」

「おべんきよお、して、がんばって、あ、あにや、あ、きれいにして、ん、んー……ツ」

Warm bath

白井沫

「い、いいこ？ ぼく、ア、いいこ？」
「え、えあ、あ。……え、えへへ」

「えへへへえ……♡」

「あ、あや、ア、ン、は、はい」
「はい」

「ぼく、がんばりますう……♡」

Warm bath

白井沫

トラック3 「たすけてください、おねえさま」

「ひいっ」

「はー……っ、はー……ッ！」

(大丈夫、布団にこもつてたら大丈夫、だいじょうぶだいじょうぶ誰も来ない大丈夫何
も聞こえない大丈夫何ともないし大丈夫大丈夫大丈夫)

「ツ！」

(だれか、だれか来っ、だれ、だれ、だ

「ひっ、ひ、おね、さま」

「お義姉様あ！」

Warm bath
白井沫

「おねえさま、おねえさまおねえさま」
(あつたかい、だれかのたいおん、はじめて。あつたかい)
(ひとりじゃない)

「ごめんなさい、ごめんなさいっ」
「こんなの駄目だって言われると分かってます。でも、でも」「ぼく……っ」

「ん、んんう」
「んむ」

「あっ、あう、あ……」

「おねーさま」
「おねえさま」
(ぼくの、おねーさま)

「こ、わかつたです」

「こわくて」

「雷が、雷も、ぜんぶ」

「頑張ろうと思つて、でも体駄目で、ガタガタして」

「こわくて……っ」

「あ、んむつ、んぬう」

「おねーさま」

「あう」

「手……、あつたかい」

(ぎゅ、……ぬくぬく……)

「あ、あは……。お義姉様にぎゅつしてもらえて、へへ……、安心、しちやつて
「震え、止まつたかも、です」

Warm bath

白井沫

「ン、んん」

「あり、がとうございます」

「あの、その、えと……」

「ひいっ!?」

「あ、あ、あ……」

「へあ……？」

「いつしょ？」

「ずっと？」

「一緒に……？」

(ずっとずっとずっと……?)

「あ、あうつ」

Warm bath

白井沫

「あ……」

「あ、あう、あ、……は」

「だい、だいじょうぶ。だいじょうぶ、です」
「ぎゅつて、されてるから」

「え、えへ」

「は」
「へへ」

「雷は、苦手、です」

「あらしも、ちょっと」

「昔から駄目で」

「あ、あは、あはは」
「僕、孤児院に捨てられてた日が嵐の日だったみたいで、あは」

Warm bath
白井沫

「雷が、凄かつたらしくて」
「それで、はは、その、ちょっとあはは」

「こういうひ、ダメなんです」

「いきも、むずかしくて」

「どうしようも、なくって」

「でも、へへ、はは」

「だれかと、いつしょなんて、はじめてだから」

「だから」

「ちょっと、こわくないです」

「は、あえ？」

「あ、ちょ、んんっ！」

Warm bath

白井沫

(お、おふ、おふ、おふと、おふ、つ、つれこまれちゃった。) (あ、あう)
(あう)

「あ、んう」
「おねーさま」

「はう、う」

(ちかい)

(ちかくて、)

「お義姉様、良い匂い」

「あまくて、なんだか、おちつきます」

「ん、ん……」

「えへ」

「はい」

Warm bath

白井沫

「はい」

「ありがとうございます、
お義姉様」

トラック4 「お義姉様の『ご教育』の始まり」

「お、お義姉様！」

(ようやく帰ってきて下さった！)

「あ、あの！ 僕、お勉強、頑張りました！」

「お義姉様の出された課題は終わっています」

「えと、あ、あの、お義姉様がお帰りになつたと聞いて、あの、その……」

「お、おかえりなさいませ、お義姉様」

「あの、えと」

「ほ、褒めて、下さいますか……？」

「わきや!?」

Warm bath

白井沫

「あ、あう。あ、頭、撫で撫で」

(ごほうび、ごほうびだ)

「あうあう……あ」

うにゆ

—
あう

「ん
ん、
……
んふ」

(あたま、ふわふわするー……)

「あ、あう」

「も、もう、お終いですか……？」

「あう！？」

Warm bath

白井沫

「あ、あ、……ど、堂々とする……」
「も、申し訳、」

「あ」

「謝るのも、駄目でした、ね」
(えと、えと……どうどう……堂々……)

「ん、んん」

(おねえ、さまを、真似て……、胸を、そらして)

「えへ」

(背筋、よく、ですよね?)

「あ！」

「今夜、僕の部屋にいらしてくださいますか？」
(それってなんだか、すごく仲良しみたい……!)

「嬉しいです！ 絶対起きてますから！ 待ってますから！」
「楽しみに、しておりますっ！」

「えと、あの。お義姉様？」

「どうされました？」

「ご体調でも悪い、ですか？ その、顔色が……」

「あ」

「そ、うですか？」

「いえ。問題がないのでしたら、それが一番、なんですが……」

「お苦しそうでした、から。どうしたのかな、って」

「？」

「分かりました」

「でも何か、その、お悩み事でもありましたらご相談下さいね」
「僕、お義姉様の為なら何だってしますから」
「お助けできることがありましたら、何だってお申し付け下さい」

(あ、おねえさま、わらつた)

(よかつた)

「へへ、えへへ。はい！」

「いつだって僕は、お義姉様のことを思っております！」

「あにや……？」

「あ」

「おねーさま」

Warm bath

白井沫

「起きておらず申し訳ございませ、」

「で、でも、お義姉様が、全然来てくれなくて、」

「ア、あう？」

(
「ず、ずばん？」
とられ
?)

「おね、さま？」

「なに、して……？」

「あにやあう！」

(
へあ
?)

「あ、ン……」

(
う
?)

(
あ、あ……、は……?
)

「お、お義姉様……？」

「ぼ、僕の、あの、お、おち、おちんちん、踏んで、ど、どうし……？」

「裸足、なんて」

「おね、さまの、その、お御足みあしが汚れてしまします……よ……？」

(おふろ、は、はいつてる、けど)

(ち、ちが、う、いみで……よごしちゃいそ、)

「あうっ」

「な、何……、え？」

「何ですかそのとろつとしてるの……」

(それ、まさか、いやでも)

「え、嘘、何、まつ」

「あんっ！」

「あ、あ、あ、」

「にや、あ、なに、あつ、あ、あ」

「おね、さまあ！」

「あつ、あつ、おちんち、あつ、ちゅこちゅこ、しな、でえ……！」

「んつ、んつ」

「あ、や、やあ」

「え、えつち？」

「い、いんりや、あ、あう」

「ん、ん、ご、ごめんにやさ、あつ」

「お、おねえさまあつ」

「さきつぼ、あ、やだ、や」

「あたまあ、まつちろになつちやうう」

「おね、さま、おねーさま」

Warm bath

白井沫

「きやうつ」

「あ、にや、に、ぴりぴりすゅ
「おちんち、ピリピリして、ア、」

「あーつ！」

「いた、いたい、おねえしやま、いた」

「あうう、あし、あしい」

「やめて、おね、さま」

「や、あ、あ、あ、」

「おね、さまあつ」

「なんかきちゃう、きちゃ」

「あしやめて」

「きちやうからあつ」

「きちや、でちや」

「でう、うううつ！」

「あ、あう」

「あ……」

(ほ、ほん、とに、でちや、)

「は、う、うう……」

(お、おねーさまの、あしに)

「あうううつ」

(この、きれいなひとに……—)

「お、お、おもしり、しちやつたあ……つ！」「
おね、おねえさまの、あし、よびし、よび、」

Warm bath

白井沫

「うええええええつ」
「あ、あう……つ」

(あ、あとしまつ、まで)

「あう……」

「お、おね、えさまあ」

(しぬ。しんだかもしけな、)

「ひつ、ひつく」

「おねえさま、おねえさまあ」

「あう、あう」

「あたま、なでなで」

「きもちい……」

(何も、考えられにや、……あうう
「あにやう……うう……」

「あ」

Warm bath

白井沫

(終わっちゃや、……え?)

(い、インバイ、イヤシイ……)

「あ」

「お、おやすみ、なさい」

「ませ」

「いんば、いやし、」

「え、あ、う……?」

「え、ええ? すごい棒読み」

(どう聞いても、罵倒じやない……)

「お義姉様、演技力ひつど……」

トラック5 「お義姉様の期待に応えたい」

「お義姉様」

「おかえりなさいませ」

「この間の夏休みは、お帰りになられなかつたので、すごく久しぶりに感じます」

(本当に、ほんとうに。ひさしぶりだ……)

(手紙だけじゃ、足りないのに)

「とても、……きみしかつたです」

「お義姉様がお家のいえ為にご帰宅なさつてるのは重々承知なんんですけど、その、えへへ」「でもお義姉様、こちらにいらっしゃる間は、僕の相手もして下さるでしょう?」

「えへ、うれしいです……えへへ」

Warm bath

白井沫

(……ん、お義姉様も笑つてくださつてる)
(今のうちに聞いておこう……)

「きょうは、あの、その」

「きよ、……今日も」

「あ、あの」

「躊^{しつけ}て、いただけますか?」

(えつちなこと、してくれますか?)

「お義姉様の、手で」

「ず、ほん、ぬぎました」

「そ、それで! ど、……どう、したら」

(あ、あえ?)

「きょうは、手、なんですか?」

(え、なんだか、……すごくふつう)

「あ、いえ!」

「お義姉様ならなんだって! その。す、……すきです」

「今日も、あの、足で、躊躇いていたくのかと、ばっかり……思って、いたので」

「へ?」

「あつ」

「ぼ、くが、手で、って言つた、から……」

「あ、えー……。え? そ、そう、なんですね」

「はえー……」

「僕の要望、通るんだ……」

(仮にも『躊躇』って言つてるのに……? それでいいの?)

(変なの一……)

「う。うう」

「あ、あの、その、それは、その」「も、もしかして、その、初めて、あの、僕を躊躇っていた際に、あの、使われた
…」

「あ、今日は温めて、つかう」

(あたためて……)

(……ねえさまの体温で?)

「はあ。そう、なんですね」

「へー……」

(謎のサービス精神の一……)

「エツ」

「あ」

「冷たかった、ですかね。そ、そうだったかも……」

「その後のえつちなことのせいできちつと……、覚えてないから」

「あ、あはは。ご配慮、ありがとうございます」

「？」

「お義姉様、何か意を決している」

「すごく、真剣な顔だ……」

「あ、は、はい！」

「あし、ひろげます」

Warm bath

白井沫

「きやう」

(お、おおおおお、おねえさまが、僕の足の間に……！)

「お、おね、さま」

「あの、その、えと」

「ち、ちかい」

「んく」

(ど、どうしよう、どうしたら、いいかな
(口とか臭くない？ 変じやないかな、僕)

(は、はずかしくて、うごけない……)

(……)

(……あれ?)

「あ、あの。おねえさま」

Warm bath

白井沫

「触られないのです、」

「きやう！」

「あ、あにやあ♡」

「ああ、あつたか……」

「おねえさまの体温、あつたかいい」

「ん、ん」

「はあう」

「おてて、柔らかい」

「おね、さま、の手、こんなに小さかつたんですね……」

「お義姉様の可愛い手が、僕のちんちん、撫で撫でしてる」

「えへ。えへへえ……♡」

(頑張つていらつしやつて、えへ。えつちでかわいい)

Warm bath

白井沫

「あうつ！」

「あ、あ、急に、握ら、な」

「ン、ン、ン」

「あ、ああう、上下にい、ちゅこちゅこされるのだめ」

「あつあつ、だめ、なのに」

「おね、さま、おねえさまあ」

「あう、あう、あう」

「先つぽお、ぐちゅぐちゅされるの、きもち」

(あ。ねーさま)

(髪)

(耳に、かけてる)

(耳、見えてる)
(めずらしい)

Warm bath

白井沫

(なんでだろ……)

(……うゅ。手、ずっとうごいてない)
「うぶあ」

「あ、んむ」

「おいし、そお、ですね」

「ン」

「お耳、いつも見れない、お耳」

「あ、あ、」

「今日はあ、髪、かけてるんですね」

「おねえ、さまあ」

「お、ねえさま？」

「あ、あの」

「きょ、きょうはもう、おしまい、ですか？」

「ひやうん♡」

「あ、あや、あ、あ」

「ま、まだあ、ですよね」

「あ、あ、ご、ごめ、なさ」
「羨、ですもんね」

(お義姉様、いつも最後まで僕の面倒見てくださいますもんね)
(たくさん、ンツ、びゅつびゅ、する、まで)
(ご丁寧に……)

「う、ン、ん、」

「僕、僕」

「おねえさまあ、ン、ン、」

「お御足より、あ、ちゅこちゅこ、ゆつくりでえ」

「あう、あ、あ」

「ンツ、も、もつと、強く、してください」

「おねえさま、おねえさま」

「お耳、まつかです」

(僕の、声が耳にかかるの、恥ずかしいです?)

「まつか」

(かわいい)

(かわいい、ぼくの、ねーさま)

「あまそう」

Warm bath

白井沫

「おねえ、さまあ
「おねえさま」

「は、あー……」

「んむゅ」

「こり、おりしてへ、たのひ」

「おねーさまの、みみ、はむはむ、
たのひい」

「おね、さま」

「おねーさま」

「も、でちや、でちやいます」

「びゅーって、おねーさまの手に」

「ぴゅつぴゅ、僕の、でちや」

「でちや、あ、あ」

「あつあつ」

「んーーっ！」

「あ、は、はー、はー……」

「はう、あ、あ、は……」

「んく」

「お、おねえさまの手、僕の白いのでどうどう……」

(手首まで、どうって)

「えへ。えへへ……よぎ」しちやつた。えへへへ

「はう……？」

(手？ じつと見てどうしたんだろう、)

「ひっ！」

(なめ、)

(なめた!! このひと！ 僕のちんちんから出たの、舐めた！?)

「お、おおお、お義姉様!?」

(それはちょっと! はずかし、といふか、いや、あの……!)

「な、なんで舐め、「

「汚いです! 僕の、その、ぼ、ぼくの、ちんちんから出た、もの……ですし……!」

「あ、あうあう……」

「お義姉さま、あの、手、拭きましよう」

「舐めるのは、あの、良くないというか。きたない、と、いうか」

「きやうん!」

「あ、あや、あ、あ」

(イッた、ばっか、なのに、きもちーきもちー、されるの、だめ)

「ご、ごめんにやさ、勃つちやつて、ごめんなさい……つ」

「僕の汚いの、舐めてるおねーさまに勃つちやつて、ごめんなさい、」

Warm bath

白井沫

「ほえ……？」

「しつけ？」

(まだ、えつち……?)

「もう一回……?」

(して、くれる……?)

「は、はいっ、お義姉さまっ」

「やうつ」

「おね、さま、おねえさま」

「ちゅこちゅこ、上下にされたらあ、またイツちや」

「もつとゆつくい、ゆつくいい……つ」

「あ、あ、あ、あつ」

「あ、はう」

「おね、さま？」

(?)

(手も、止めて……)

(なに、なに、して……?)

(どこ、……?)

「何を、見ておられるんです?」

「おねえさま?」

「お義姉様」

「僕の躾をして下さるんじや、」

(あ、こちらをお向きになつた!)
「んむつ!」

「お、おねえさま?」

Warm bath

白井沫

「どう、なさい、」

「は、あうむ」

「ん」

「う？」

(くち、くつついで、る……)

「んむあ」

「あ、あう」

「ちゅう、だ」

「ちゅう、されちゃつた……」

「エ」

「え、あ、い、嫌？」
「ぼ、僕が、嫌に思うか、とかの話、ですか……？」

「えあ、あ、そ、そうですよね。そう聞かれてますよね」

「何か、期待されている」

「僕、何かを期待されてるぞ……」

「え、えーっと」

「ゴホン」

「い、いや、です」

「あ、あう、あうあうあうあう」

(満足そうにされてるけど！ 僕は！ 罪悪感！ いっぱいですううう!!)

「お、おねえ、さ、」

「あや、んむ！」

「んゅ、んむ、ン、ン」

「あ、あ、あ、イツちやう、いつちやう、いつちや」

「お義姉様の手に、だしちやう。お義姉様、汚しちやうう」

「あ、いく、いく、いく」

「お義姉さま、イ、……んーつ！」

「あ、あ……、は、は、はー、……あ、はう」

「たくさん、だしたあ。いっぱいでちやつたあ」

「お、おねえ、」

「んむうつ」

「ん、ちゅ……、ちゅう……」

「は、あ」

「こ、これも、羨、ですか？」

Warm bath

白井沫

「そ、そぅ……、これも……」

(つまり……)

(しつけ、つて、いつたら。……キスも、してもらえる……)

「えへ。えへへへへ」

「はあい、お受けします」

「お義姉様あ」

トラック6 「お義姉様とご奉仕のお勉強」

Warm bath
白井沫

「おかえりなさいませ、お義姉様」

「最近たくさん帰ってきて頂けて、僕嬉しいです」

（たまにただのお休みでも帰ってきてくださいますし……）

（その時も僕と『えっち』してくれて……）

「えへ」

（でも長期休暇のほうが嬉しい）

（ずうつっと、お義姉様が居なくなること考えなくて良いんですけどもん）

「あつ、も、勿論お義姉様はお家のお仕事とか、お勉強関係で帰ってるって分かってます！」

「分かってるんですけど、えへ……」
「でも、嬉しいです」

「あ、そうだ。この間新しくケーキ屋が出来たんですよ」

「評判も良くて、食べてみたら美味しくて！ お義姉様にも食べてほし、」

「あ」

(買ったやつ、そういうえば食べちゃったな……)

(一週間前だつたから……、どうせなら保存魔法でもかけておいておけば良かつた)
(失態だな、僕)

「えーと」

「ケーキは、その、食べちゃったんですけど、えと」

「焼き菓子はあります！ はい！」

「後でお持ちしますね」

(一緒にお喋りしながら食べよーっと)

(ん?)

「お義姉様？」

「今日も、何だか、その、あまり顔色が良くない、と言うか」「もしかして本日のご帰宅はご療養でしたか!? すぐにメイドをお呼び、」

「あ。違う」

「そうです? なら、安心です、けど」

(じゃあ、もしかして……)

「も、もしかして、その、僕に、あの」「新しい髪を、とお考えなんじやないかな、とか……」

「あ! 本当ですか?」

「では僕、本日もお待ちしております」

Warm bath

白井沫

「はい♡」

「お義姉様！」

「今夜も良い月夜ですね。いらつしやいませです」

「どうぞいらして下さい」

「今日はどう転けて頂くんでしょう？」

「はい」

「はい」

「ご奉仕」

(ごほうし)

Warm bath

白井沫

「ご奉仕」

(すごい、僕に都合良さそうな単語出できちゃつたなあ……)

「一体、どのようにすれば……？」

「あ」

「はい」

「待ちます」

「ん、んん」

「また何か見てる……」

「はい、は……え？」

「ワタシヲ キモチヨク シテ」

「気持ち、良く……」

Warm bath

白井沫

「それは、その、……えつちな、意味で、ですか？」

「エツチナイミデ！」
(本氣で!?)

「わか、りました」

「僕が、その、好きにして、良いん……？」

「エツ」

「ア」

「オ、オネエサマガ！ キモチイイツテ イツタコトヲ スル!?」

(僕もしかして夢でも見てる!?)

「お伝え頂ける……」

「そ、そう、ですか」

(こ、これが、現実か……すごい……)

「い、いえ。頑張ります……」

「自らハードルを上げた……。なんて新しい」

「まず、何をすればいいですか?」

「はい」

「あ」

「はい」

「待ちます」

(あ。……検索、始めちゃった)

(うーん)

(すごく難しい顔してるなあ……)

Warm bath

白井沫

「もしかしなくてもお義姉様、性知識あまりないので」

「あ、決まりましたか？」

「はい」

「きす」

「キス、を、する」

「きすを」

(きす……？　こいびと、みたいに?)

(え……？　都合が、良すぎ、……まつて)

(しんこきゅう、しよう)

(うん)

「つすうううう」

Warm bath

白井沫

「はい。します」

「目、瞑つて下さい」

「は、あ、ン……、ちゅ、ちゅ」

「ど、どう、ですか？」

「そうですか」

「じゃあ、もうちょっと」

「ン」

「ちゅ、ちゅ……ちゅう、ちゅ」

「気持ちいいですか？」

「えへ。良かつたです」

「お義姉様、顔真っ赤で、体温も熱くなつて、大変そうですね」

Warm bath

白井沫

「ちゅ、ちゅ、……ちゅう」

「僕、お義姉様に気持ちよくなつて貰うためにやつてみたいことあるんですけど
良いですか？」

「ん」

「よ、しょと」

「お義姉様、お耳をぺろぺろされるのお好きじや、ないですか？」
「こうやつて」

「気持ち、良いですか？」
(気持ち、良いですよね?)

「教えて下さい」

Warm bath

白井沫

「えへ」

「良かつたです」

「では、引き続きご奉仕、致しますね」

「ちゅ」

「おねーさま、えっちなお声出てます」

「奥、グリグリされるのが好きですか？」

「教えて下さる日なんでしょう？ お教え下さい」

「ちゅ」

「こえ、れふか？ こお？」

「きもちい？」

「ちゅ」

Warm bath

白井沫

「んふ」

「そうですか」

「じゃあ、こっちもご奉仕、しますね」

「はー、んむつ」

「こっちも、きもち一れふ？」

「ちゅ」

「えへ、好きれふか。うれひ一れふ」

「おねーさま、あえぎごえ、えっち

「ちゅ」

「ン、ん。イッはつてくらはい」

Warm bath

白井沫

「ン、っ、ん、んー……」

「ふあ」

「どうでしたか？ 僕、ご奉仕できてました？」

(たくさん、たくさん、僕で気持ちよくなつてもらえました?)

「えへ」

「本当ですか？ 良かつたです」

「僕、また新しいことを知れて嬉し」

(あ、待つて。これ『嬢』だつたな。……嬉しい、とか、言つてだい、)
「いです」

(じょうぶそう。うん)

(お義姉様、放心してゐるし。何も考えられなさそうだからセーフ)
「えへー」

「んーー」

(もうちょっととえつちなことで出来ないかなー……)

(……うん、駄目かな。疲労困憊って感じだもん)

「お義姉様、今日はこちらで眠つて行かれます?
くつたりして、お疲れのようですし……」

「寝巻きですし、使用人への連絡は僕しておきますから
「こちらで寝ましよう?」

「僕、えとほら。あー」

(言い訳どうしよう。何か、いい感じの言い訳……)

「ご奉仕した後のお義姉様をお一人にするの、駄目かな、とか思いますし」

「ご奉仕のアフターフォロー的な……はい」

「はい」

(悩まれてそだだから、とりあえず頷いておいて……)

「はい！」

「ちゃんと僕、奉仕の何たるかをを学び、ショックを受けました！ 大丈夫です！」

「はい」

(やつた！ 納得してくれそう！)

「はい♡」

(やつた——！ お泊り決定ーー！)

「じゃあ僕、添い寝させて頂きますね！」

「お義姉様も慣れないご奉仕の躊躇を僕にして下さって、疲れてしまわされましたよね」「寝て、起きたら焼き菓子食べましょう？」

Warm bath

白井沫

「んちゅ」

「えへ」

「ご奉仕と言えば、寝る前はキスかなって」

(ソースとかはないけど。僕がしたいだけだけど)

「はい」

「ちゅ、ちゅ、ちゅ」

「えへ」

「おやすみなさい」

トラック7 「遠くに行かれてしまう僕のお義姉様」

「どなたですか」

(こんな時間に何の用だ?)

「あ」

(お義姉様の声?)

「お義姉様!」

「いかがなさいましたか?」

「こんな夜更けにお知らせもなくいらっしゃるなんて、お珍しい」

「あう?」

Warm bath
白井沫

Warm bath

白井沫

「あ、はい！ 多分、今年だけで十センチは伸びたかも……」
「えへ。お義姉様の身長を抜くのも、もう少しだと思います」
「これからもお義姉様のご期待に添えられるよう、鍛錬にも力を入れます！」

「それで今日は、」

「あ
「え？」

「しょ、留学せ、え？」

「明日から、留学に？」

(一体、それ、……なんにち？)

「き、聞いて、おりません」

「ご当主様からもそのような話、聞いて……」

「ち、違います！」

Warm bath

白井沫

「お義姉様が奨学生に選ばれたのは、本当に本当に素晴らしいと！」

「おもって、あります」

「ほ、本当に明日からなんですか？」

「いつまで？」

「三ヶ月とか、いえ、二週間くらいの短期留学で、」

「あ」

「三年、長期、留学」

「そ、そ」

「なん、ですか」

「三年も……」

(この、つまんないお屋敷で、一人……)
(おねえさまの、いないせいかつ)

僕、
僕！
会いに行つても、

（いつだ、僕が行けそうな時……えっと、えっと、えっと）

「そ、そう！　長期休暇の間なら構いませんか!?」

「もちろん、勉強も、鍛錬も頑張ります！」

「お義姉様のご期待に添えられるよう、頑張りますから……！」

「本当に!?」

「よ、良かつた……」

「明日、笑顔でお義姉様を見送りできるよう、努力致します」

(せめて、笑つてお見送りしたいし……)

（…………どさくさに紛れて抱きしめてもいいかな…………）

(お別れの、……あいさつ、みたいな……)

Warm bath

白井沫

「今日の訪れは、その、この話をするために……？」

「そ、う」

「では、もうお帰りになられ、」

「んやう!?」

「あ

「あは」

「僕の躰、に、来てくださつたのですね」

「はい、はい……！」

「存分に、躰けて下さいませ」

トラック8 「お義姉様それ、お別れの贈り物ですか？」

「あう」

(え)

(えへ、お義姉様に押し倒されるの……すき)

(今から、えつちなことされます、つて……分からせられてるみたいだし)

(すき)

「ズボン、脱げばいいですか？」

「上、も？」

(?????)

「上
も?
なぜ?
?」

Warm bath

白井沫

Warm bath

白井沫

「全部脱げという、ことですか？」

「いえ、脱ぎます。お義姉様の、躰、ですから」

「これで、」

「ン」

「ほえ？」

「ア!?」

(下着かわい、いやそうじやなくて!)

「お、おね、お義姉様!?!」

「お義姉様までどうして脱いで、「

「きやう!」

「ひ、ひい……っ」

「あ、あの、お義姉様」

「僕のちんちんに、お、お義姉様のお股ぐりぐりっ」

「んんっ」

「ろおしょん、とろとろしちゃうんですかあ……？」
(すぐ)ーい、えっち増し増しだあ♡

「あう」

「おねーさまのパンツ、ローションで透けちゃって」「下の毛、薄っすら見えちゃってる……」

「んうっ」

「腰、ア、ゆるゆる、しな、で」
「ン、ン、あ」

「おね、さま」

「僕も、あの、僕も、腰、揺らしても、良いですか？」

「あにやあう！」

「ぐりいってえ、ぐりぐい、お股押し付け、にや、でえ」

「う、ごめんなさ、ア、羈、なのに、生意氣、言つてえごめんなさ」

「あ、あ、」

「お義姉様の、お股からあ、ちんちんの先っぽお、出たりい、入つたりしてえ」

「んつ、ん」

(まるで本物の)

「セツクス、みたい」

「あ、あ、や、あつ、おね、さまあ」

「そんなに大きく、腰、動かさな、でえ」

「あうつ」

Warm bath

白井沫

「さきつぼお、さき、あ、あ、お股でぐり、ぐりつ、しにや、ああ、あ、
は、あう？」

「パンツ、痛い……？」

「え」
「う？」

「いや別に、痛くは
「あ、……ま、て。これ、って、もしかして、もしかするんじやあ……？」

「い、いた、い、かも
「しれ、ない、……です」

「あ」
「ンツ」

Warm bath

白井沫

「……あはっ♡」

「脱いで、下さるんですかあ……？」

「パンツ」

「あ。またどこか見てる」

「何、見てるんだろ」

(絶妙に、……何もないところ見てるんだよなあ……)

(まるで検索のためにパネル出してるみたいだけど、でも何も見えないし……)

「んんっ」

「あ」

(すまた、すまだだあ！♡)

「おねーさまの、お股に、僕のちんちん直接……っ
「にゅぶ、にゅぶ、されてえつ」

「あ、ア、きもち」

「あ、あ、は、はいい」

「おね、さまに、僕、ア、やらしーこと、されます」

「やらしーことされてえ、ンツ、気持ちよく、なつちやつてますうつ」

「んつ、んつ」

「おねえさまのぬるぬるお股で、ちんちん挟まれてえ、ちんちん全部いいこいいこされ
てえ」

「きもちい、きもち、いい……つ」

「んんんつ、さきつぽお、ぬるぬるでぬるぬるちゅこちゅこお」

「おねーさまのあなに、くぼくぼすゆのらめえ……つ」

「あ、んつ、あうつ」

「気持ちよくて、イツちや、イツちやうからあつ」

「まだ、イきたくな、あ、あ、あ」

Warm bath
白井沫

「ん、ん、ン、」

(はいっちやいそ、はいっちやう、あは)
(はいっちやえ)

「んーー……つ」

「あ、あうつ」

「あ」

「はい、つちやつたあ」

「ぜ、ぜんぶ、あつたかい」

「あ、ご、ごめんなさ」

「お、ねえさま？」

「お顔、まつかですねえ」

Warm bath

白井沫

「おねーさまあ」

「勝手に、腰動かしてごめんなさい」「ぬ、抜いた方がいいか、ですか？」

「え、えと」

「えと」

「僕は抜いたほうが良いと、思います」
(つて……、言つた方が、あたり、かな)

「きやうつ！」

「あ、ああう」

「あ」

「あは」

「お義姉様の、いじわるう」

「あんっ」

「あ、あ、」

「そ、んなに、腰、揺らさな、で、くださ」

「あつあ、イツちやう、からあ」

「おねーさまのナカでちんちん、ぬるぬる、ごしごしきれて、シコシコされてえ」

「僕、イツちやううつ」

「おねーさま」

「おねーさま」

「お別れする、前なので、ンツ」

「僕に、ぼくにい」

「お慈悲をくださ」

Warm bath

白井沫

「ぎゅーって
して」

「ぎゅーってえ」

「ンツ」

「うれし、です。お義姉様」

「えへ」

「あんむつ」

「おねえさま」

「おねーさま」

「すき、すき」

「ぐちやぐちや、きもちい」

「どろどろ、すき」

「おねえさま」

「は、ああう」

「あ、あ、」

「奥、いいです」

「おねーさまのおく、ぐちゅぐちゅすると」

「おねーさま、きゅうきゅうしてえ、僕のちんちん、ちゅうちゅうしてえ」

「きもち」

「は、あ、あ、あ」

「腰、とまんにや、ああ」

「やば、いい、いいです……つ」

「あ、あ、ねえさま、ねーさま」

「なか、ギュツギュつてえ」

「ねえさま、止まらな、で」

「僕のちんちん、もぐもぐ、ぎゅーぎゅーして、ビクビクしてとまらな、でえ」

「僕、ぼく
も、むり」

「ねー、さまあ
も、きちゃ」

「でちや」

「いく、いく、イツちゃ、イ、んんーツ」

「あ、あ、は
は、あう」

「なかあ」

「だしちゃ、つたあ」

「えへ。えへへへ」

(暫く会えないんですし、これくらい許してくださいますよね……?
おねーさまが、いなくなるのが、……悪いんですから)

Warm bath

白井沫

(え)
「おねえ、さま？」

「あ、あれ」
「お義姉様？」

(あ)
(え?)

「大丈夫ですか？　あの、あの」

「あ、やっぱ、反応がない」

(本気で気絶しちやつた……。やりすぎた……)

「僕が部屋までお連れ、……あ」

「アハ」

「血だあ」

「えへ、えへ」

えへへへつ

おねーさまの♥

迦女

僕がもらつちやつた
♥

元々

「大好きです」

「僕の、お義姉様」

「ん、ちゅ」

「必ず、会いに行きますからね」